



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 19 No.3 2018年 9月

鷺の宮卓話

大風呂敷を広げる

研究所長 太田敬雄

今、余り聞かなくなった表現に「大風呂敷を広げる」がある。故事ことわざ辞典によると「実現するはずもないほらを吹いたり、大げさなことを言ったり、計画したりすること。」とある。否定的に使われることが多いようだが、私はそれとは違う面に注目している。

高校時代の恩師、小原國芳先生の話は高校生の私にとっては常に「大風呂敷を広げる」話だった。一私学の長が国家の教育を論じつつ、その学校の明日を夢見ていたからだ。彼の悪口を言う者は「大狸」とも陰口を利いていた。しかし、彼はその大風呂敷に広げた夢の実現に向けて 90 年の生涯を歩み続けたし、風呂敷に広げた全てを実現したわけでは無いが、実に大きな仕事を成し遂げていた。

時が経ち、私の父が校長を勤める新設高校の教師として数年勤めたが、そこでは父が「古狸」と呼ばれ「また風呂敷を広げている」と教師仲間が口にしていた。しかし、小原風呂敷に慣れていた私は父が広げる「風呂敷」の小ささが気になっていた。父が広げていたのは小原國芳先生の風呂敷と比べるとハンカチ程度の大きさでしかなかった。父と小原先生を比べながら、私は大きな風呂敷を広げないと大きな仕事は出来ないのだと確信するようになっていた。別の言い方をするならば、誰も自分が広げた風呂敷以上の仕事は出来ないのだ。

風呂敷を広げる者、それに向かって全身全霊で努力を続けなくてはならないという義務がある。その努力なしにはただの「ほら吹き」になる。

研究所を立ち上げた 2000 年、私は「相互理解に基づいた豊かで平和な地球社会を創るために」を目指すところとして掲げ、そのために「多文化交流活動」を立ち上げてきた。まさに大風呂敷を広げたのである。

「教育立国」を唱えた小原國芳は日本という枠の中で風呂敷を広げたのだった。King 牧師の 1963 年のスピーチ「I have a dream…」も彼の広げた風呂敷と言えるが、こちらもカバーする範囲はアメリカ合衆国だった。カバーする地域の広さだけで考えるなら研究所の夢は 1921 年に「全人教育」を唱えた小原國芳、63 年のキング牧師をしのご、地球社会を視野に置いている。ただし、小原時代、キング牧師時代以降の目覚ましい交通と情報の発展により、今日の地球は彼らの時代の日本やアメリカよりはるかに小さくなっているのだから比較にはならない。

今、人類が必要としているのは、小原先生、キング牧師の夢を継承しつつ地球全体をカバーする「大風呂敷」に広げ直すことなのだ。それは私のような凡人にはその片隅さえ実現できない大きな風呂敷である。けれども、この風呂敷を広げて 18 年、今では「多文化交流」に参加した多くの人々がそれぞれにこの夢の一端を実現すべく声を出し始めてくれているという実感に支えられて私は「大風呂敷」を広げ続ける。

多文化交流 in マラン 2018

多文化交流 in マランの引率者からの報告は前号に掲載しましたが、実は参加者からも原稿を頂戴していました。遅くなりましたが、ここに掲載させていただきます。

インドネシア：ショックと感動

画家・旅行ライター 平林理衣



よく、カルチャーショックという言葉聞くことがあるかと思いますが、私は、それなりに世界を旅してきましたが、インドネシアという国で私が感じたショック、感動は計り知れません。東南アジアというと、どういうイメージを持っているか分かりませんが、多くの方が非先進国という風に思うのではないのでしょうか。しかし、人々は自分の地域で使われる言語、共通語のインドネシア語、小学生で習う英語はペラペラ、さらに日本語や韓国語が話せます。そして、東大、京大レベルの学生が数十万人いるのが現実です。人々はシャイでありながら、とても穏やかで優しく、親日的で笑顔と幸せに溢れています。緩やかな時の流れを感じながら、学生達との交流やホームステイでは、普段の生活や旅行から得られるものとは全く別の経験と感動がありました。その国の生活に触れ、人の心に触れ、お互い通じ合いながら交友関係を築くということ。相手を思いやり、自分を見つめ直すこと。こういった時間が持てるのは、この多文化交流でしかできない経験だと強く感じます。インドネシアでできたたくさんの友人やステイ先の家族とは、今後もずっと、死ぬまで通じ合っていけるほどに、深く絆を結べました。その経験が、多文化交流だからこそできたので、このチャンスに心から感謝しています。

<この感動も冷めやらないまま、平林理衣さんは8月の親子多文化交流 in マランにも参加してくれました。>



親子多文化交流 in マラン 2018

第1回の「親子多文化交流 in マラン」は親子3組（子ども4人）に平林夫妻が加わって8月2日から9日にかけて実施されました。台風で日程が延びるなどハプニングもありました。

滞在したホテルにはプールもあり、各参加家族に通訳の学生が1人付くという贅沢なプログラムでした。（感想は共に原文のまま）



親子多文化交流マラン

小学四年生 小林眺大

インドネシアに行つて、日本とちがう文化がありました。一つ目は、食文化です。日本は道具を使って食べるけど、インドネシアは半分ぐらいの人が右手で食べていたのでびっくりしました。二つ目はしゅうきょうです。時間になると、とても大きい音で、町中にお祈りの音楽が流れたので、とてもおどろきました。あと、日本とは、トイレがちがいで、ホームステイしたうちはお風呂もちがいました。とても使いにくかったです。

ぼくは、このインドネシア旅行で日本とちがう文化が学べ、とてもいい経験だったと思います。次行けたら、もっとインドネシアの文化を学び、英語でせっきよくてきに、会話したいです。来年もこの交流をやつて下さい。ぜつ対行きます。

インドネシア感想文

小学四年生 豊島替太

「トゥリマカシー」これはインドネシア語で「ありがとう」という意味です。僕はインドネシアでいっぱい「トゥリマカシー」と言いました。

インドネシアの人たちは、フレンドリーでみんなが親切で仲良くしてくれて、一緒にいて楽しかったです。ぼくはインドネシアが初めての海外でした。インドネシアの料理は辛かったり、のみ物が甘かったり、朝早くからモスクから音楽が流れて、一日に五回もおいのりをしていたり、日本とは文化がちがって、少しビクビクしました。でも、スタッフのみんながあそんでくれたり、買い物を手助けしてくれたり、インドネシアの言葉とかを教えてくださいました。楽しくなりました。インドネシアのことが好きになりました。

インドネシアのみんな、「トゥリマカシー」

2018年夏のイベント報告

夏は毎年 IIMS にとって忙しい季節です。学生の夏休みに合わせて複数の多文化交流プログラムがくまされるからです。今年の夏はそれに加えて7月にオムニバス形式の「ワンコインセミナー」、8月には「親子多文化交流 in マラン」、「多文化交流 in ぐんま」、「多文化交流 in 韓国プサン」が開催され、さらに8月末から9月初めにかけて「親子多文化交流 in 安中」が実施されました。

ワンコインセミナー

かねてから一般の会員を対象とした企画をと考えてきましたが、その試みの一つとして6月末から7月末にかけて安中のまなばる、高崎の群馬キリスト教会を会場としてワンコインセミナーを開催しました。少人数ながら、和やかな学びと交流の場となりました。



太田所長が講師をつとめ、「『正しい』の範囲」、「遊びこそ学び」、「逢い見ての後の心」、「数字にだまされない」をテーマに発題と自由な懇談が続いた。

この経験を元に、10月から11月にかけて「秋のオムニバス講座」を開催します。

親子多文化交流 in マラン2018

前ページに参加した子ども達の感想文を載せましたが、航空会社の都合や台風によるフライトキャンセルなどで二度も急な日程の変更がありました。太田のように毎年マランに行っている者にとっても新しい学びの多く有った交流の旅でした。



小さなグループでしたが、実に大勢の方々に支えられた日々。子ども達だけでなく、参加者の皆様に「もっと大勢の人たちに参加して貰わないと勿体ない」とのお声を頂きました。〈写真は8月4日の歓迎会。小中学校の先生や大学の先生方も歓迎に来て下さいました。〉 右上に続く

左下から続く マランの安全な夜の街でのショッピングの後、モスクの前で。



多文化交流 in ぐんま2018

8月9日にマランから帰国。11日からは学習の森で恒例の「多文化交流 in ぐんま」。今回は総勢38名、9か国13大学の若者が一堂に会しての二泊三日の交流プログラム。初日は恒例の安中駅集合から始まり、夜にはBBQ。



2日目にはまなばるキッズも21名参加。いつもの事ですが、大学生と小学生が楽しく“対等に”交流する姿には驚かされます。



多文化交流 in 韓国ブサン2018

8月22日から28日にかけて、6年ぶりに韓国に上陸した台風の影響で予定したプログラムも随分と変更を余儀なくされました。楽しみにしていた慶州行きも中止となりましたが、それでも充実した一週間の交流の時を持つことが出来ました。



(上)宿の屋上での焼き肉パーティ (下)民族衣装で



親子多文化交流 in 安中

夏の最後は8月30日から9月3日にかけて、インドネシアのブラウイジャヤ・スマート・スクールの小中学生を招いての交流。8月31日の小中学校訪問、9月1日のまなばる親子との交流、1日から2日にかけてのホームステイ、そして2日の磯部の旅館での一泊と、子ども達には多くの体験をして貰う事が出来ました。

元々は所長が独断でスタートさせたプログラムでしたが、企画から通訳は全て学生スタッフの力のお蔭で実施出来ました。ホストファミリーや、食事ボランティアの皆さんにも大変お世話になり、財政的には安中市の補助金を頂戴しました。小中学校の積極的な受け入れも大変有り難かったです。



このホストファミリーとの別れの写真が、全てを物語ってくれます。

「ワンコイン寄付」はじめました！

クレジットカードにて毎月500円の寄付(自動引き落とし)も選択可能になりました。「一度にまとまった額の振込みは大変だけど、月500円なら…」そんな気持ちでご検討いただけたら嬉しいです！(自動引き落としは、いつでも停止可能です。)

会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」にて受け付けております。

【クレジットカード決済の手続きはコチラ】



左記 QR コード、もしくは下記 URL からアクセスして頂き手続き・ご登録ください。
アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれていますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

【郵便振替はコチラ】

下記口座まで直接お振込み下さい。
●加入者名：国際比較文化研究所
●口座番号：(普通) 00510-0-61974
※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。
※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

編集後記：2018年度7月1日以降の会費・寄付等につきましては、資料の整理が間に合いませんでした。申し訳ありませんが、次号にまとめて掲載させていただきます。

9月中には発行予定でしたが、遅くなってしまいました。次号は11月に発行の予定です。

(太田)

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393
研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>
メールアドレス：totatakao.iims@gmail.com
まなばる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>
メールアドレス：mail@manapal.jp
郵便振替口座番号：00510-1-61974